月刊島民

橋を渡る人の「街事情」マガジン

中之島

Vol.31 2011 2/1

◉iPadサイズ（と、ほぼ同じ）

天満橋サウンド

ナカノシマ大学
ビルマニアカフェ
「ダイビルをめぐる冒険」
申し込み受付中!

知られざる楽器の街

「天満村」をゆく。

中之島のすぐ近く、「天満村」と呼ばれる街をご存じだろうか。
職人と音楽家と住民と店が、公園を中心に結びついた、天に音満ちる村。
天満橋・北大江地区の楽器工房を訪ね歩く。

取材・文／綱本武雄　松本 創（共に本誌）

Violin

オールド名器満載の「総合商社」。鈴木弦楽器

5人の職人が黙々と作業する工房。気品漂う楽器が整然と並ぶ応接室。試奏や練習スペースも兼ねた倉庫。26年前、鈴木英俊さんがマンションの1室から始めた店は、1フロア全体に広がり、「弦楽器の総合商社」ともいうべき存在になった。「楽器の世界は追求すればするほど奥深く、広い。永遠に終点がないんです」と鈴木さん。取り扱うのは主に100年以上前に作られたオールドバイオリン。ヨーロッパの楽器商から直接買い付け、現代によみがえった逸品たちは、クラシックからジャズ、アイリッシュやカントリーまで、鈴木さんと同じく守備範囲が広い。

イタリア、フランス、ドイツ、チェコ…と、年に2回は買い付けに回る。在庫は多い時で400～500本。あちこち回り、最後にここにたどり着く人も多い。

鈴木弦楽器
楽器卸売商勤務を経て、鈴木さんが1984年に独立開業。ヨーロッパの楽器商との太いパイプで、バイオリンからコントラバスまで豊富なラインナップを誇る。月2回、オールドバイオリンの試奏会も。予約制。
☎06-6942-6665　日・祝休

Accordion

西日本唯一、「魔法の箱」専門店。ソハマミュージック

きらびやかな装飾の赤や黒のボディ。ボタン式・鍵盤式、大きさや使われる音楽もさまざまな「魔法の箱」が並ぶ。ここは西日本で唯一のアコーディオン専門店。奥村幸孝さんが老舗楽器店の暖簾を引き継ぎ、1997年に開いた。空気を送る蛇腹の操作で、音の強弱やニュアンスが変わるアコーディオンは「音色豊かで、人間の声のような楽器」と奥村さん。「日本でアコーディオンといえば、のど自慢か漫才という時代が長く続いたんですが（笑）、若手奏者の登場で復権してきました」。華やかさも哀愁もある音色が心に響くのか、教室は若い女性で盛況だそうだ。

ソハマミュージック
本場イタリアを中心に世界各国のアコーディオン類、さらにはピアニカやハーモニカなどリード楽器全般を販売・修理。アコーディオン教室は鍵盤式とボタン式が選べる。レンタルや無料体験もあり。☎06-6966-3050　月曜・祝日＆最終日曜休

イタリアのメーカー「ピエールマリア」は、初心者からプロ仕様まで対応。この楽器は54万円也。一生モノか。

Harp

ハーピストのホーム的ショールーム。青山ハープ

北大江公園を望むビルの2階の一室に、大小約15台のハープがずらり。弦を指先ではじくと、響いた音が空間を満たしていく。「数トンもの弦の張力を支えるグランドハープは、30年以上自然乾燥させた木材を使うんですよ」と所長の青山鉄舟さんが教えてくれる。楽器は福井県永平寺町で製造。販売とレッスン、演奏会用のレンタルなどを通し、関西約300人のハープ人口を支える。あのベルリンフィルの奏者も関西公演のたびに来店。「楽器は空輸できないので、ここでお気に入りの楽器をレンタルしたり、練習にみえますね」。まさに頼れるホームベースなのだ。

1台のお値段は200～400万円というが、「教室には普通の主婦の方も多いですよ」と青山さん。

青山ハープ 大阪ショールーム
世界で3社、国内では唯一グランドハープを製造。当初は新大阪で検討していたショールームは「鈴木弦楽器さんのラブコールで」現在地へ。不定期でミニコンサートも開催。体中に音が響きわたる感覚を体験して欲しい。☎06-6966-2388　日・祝休

Mandolin

故郷で途絶えた音色、時空を超え引き継ぐ。中川弦楽器

「ボディやフレットの板をはがすなんて言ったら、普通の人には壊しているように見えるでしょう？　でも、それが私の仕事なんです」と穏やかに話すのは、代表の中川豊太郎さん。端的な例は学生の楽器の修理。猛烈に練習するあまり、フレット（ネックの一部）は3～4年間で通常の20年分ほどすり減ることも。「そういう楽器を見るのが嬉しくてね」。実は日本は世界屈指のマンドリン大国。故郷イタリアでは、第二次世界大戦の敗戦で演奏文化が衰退したが、日本では19世紀末に紹介されて以来、途切れずに続く。「歴史を受け継いでいると感じます」と作業の手に力を込めた。

中川弦楽器

勤めていた楽器商退社後、1993年に創業。「大戦以前」の貴重な楽器から気鋭の新作までが並ぶ店内は、楽器と見事にマッチしたアンティーク家具で構成され、見入ってしまう。☎06-6942-9992　日・祝休

1900年頃の最高級品。細かく施された螺鈿をはじめとした装飾の美しさから、コレクションする富裕層も多かった。

Violin

父がつくる裾野と息子がつくる音色。Liuteria BATO

通りに面したガラス越しには職人たちの姿。天井にはニスを幾重にも塗り重ねた楽器が、艶やかな光沢を放っている。創業者の馬戸（ばと）修さんは、日本へ初めてストラディヴァリウスを紹介した高麗橋の老舗、丸一商店で修業し1979年に独立。子供用の分数バイオリンの長期レンタルや工房内でのコンサートなどを通してバイオリン人口を広げてきた。当初働いていた職人たちは独立し、今は息子の建一さん・崇之さんの兄弟が看板職人として活躍。オーダーメイドの楽器制作に切磋琢磨する。「たまに調整で帰って来る楽器の音を聞くのが楽しみ」と建一さん。

Liuteria BATO（ルーテリア バト）

イタリアのクレモナでも修業した建一さんの楽器制作は、ブログで公開（http://www.k-bato.com/）。オールド、モダンバイオリンも豊富に揃い、漆原啓子さんのコンサートや深山尚久さんのレッスンも不定期で開催。☎06-6946-0316　日・祝休

左から岸野さん、崇之さん、建一さん、西村さん。建一さんの赤みの強い仕上げは、本場イタリア仕込みであることを物語る。

Cello

「チェロ人間」的職人の包容力。山本ストリングハウス

「弦楽器には職人の人間性が出る。僕はチェロ人間。朴訥でゆったりした、丸みのある音が好き」という山本正男さんは、18歳からこの道45年の大ベテラン。若い頃は実家が営む銭湯の2階でチェロを専門に作っていたが、仲間に誘われて北大江へ。自分の好みはさておき、徹底した職人気質でバイオリンからコントラバスまで、すべてを扱う。「お客さんと話をしながら求める音をしっかり把握するのが大事。医者の問診と同じ

やはりオールドスタイルの楽器に惹かれるという山本さん。これは120年ぐらい前のチェコのチェロだそう。

［鈴木弦楽器］鈴木英俊さんに聞く

かくして楽器の街「天満村」はできた。

取材・文／松本 創（本誌）

緑と公園。類は友を呼ぶ環境。

僕が北大江に来たのは1981年（昭和56）。最初は、馬戸さん（Liuteria BATO）の所に居候する形でね。馬戸さんは、高麗橋にある老舗楽器店［丸一商店］から独立して、仕事場を構えていた。

なんでこの場所にしたかって聞くと、「静かで緑が多かったから」と言ってたね。天満橋の駅や大阪府庁にも近い街なかやのに、公園を囲んで落ち着いた雰囲気がある。それが良かったんやろうね。

3年ほどして独立する時も、馬戸さんの部屋の窓から見えたマンションに決めた。僕と入れ替わりに、堺でチェロを作ってた山本さん（山本ストリングハウス）が馬戸さんの所に来て、その後に中川弦楽器、ソハマミュージック、青山ハープ。みんな知り合いやったから、僕が物件を紹介したりして。FUJIYAはうちの店にいたしね。卸売と小売、職人と販売というふうに仕事内容やお客さんが少しずつ異なってたのも良かった。持ちつ持たれつというか、「類は友を呼ぶ」環境があったんです。

街の引き出しは多い方がいい。

これだけ楽器商や工房が集まると、ミュージシャンもよく歩いてますね。生の弦楽器を扱う所が多いからクラシック中心やけど、ジャズ系の人もね。ジャズシンガーの綾戸智恵ちゃんなんかはデビュー前、僕が紹介して、公園前のマンションに住んでた。よく仕事場に「シーメー（メシ）行こー」って来てね、当時はお金もないから、松坂屋（現在の京阪シティモール）の試食コーナー回ったり（笑）。腹が膨れたら「ヒーコー（コーヒー）行こかー」って、公園前の［マリアン］（P7）によく行ったなあ。

あの店では今も毎朝、馬戸さんや青山さんとコーヒー飲んでますよ。長年の習慣で。雑談が情報交換にもなるし、まあ業界新聞読んでるようなもん。「北大江たそがれコンサート」（P6）のことも、そこで話が出たしね。楽器工房も一つや二つじゃこうはならなかったと思うんですよ。あっちの店、こっちの店と街全体に引き出しがたくさんあるから、お客さんの幅も出るし、いろんなつながりができる。それが「天満村」になった理由かな。

Contrabass

昨年からは鈴木弦楽器時代の同僚だった松本朱代さんが、オーストラリアでの修業を終えて加わり、弦楽器は何でも扱えるように。

理想の音を実現する、頼れるコンバス職人。弦楽器FUJIYA

店主・藤井俊之さんは日本でも珍しいコントラバス専門職人。修理を手伝ったのをきっかけに鈴木弦楽器で10年ほど働いた後、6年ほど前に独立、現在は谷町四丁目に工房を構える。楽器の中でもとりわけ大きなコントラバスを扱う醍醐味を「プレイヤーの体型によって調整が必要で、音も好みに合わせて変えられる。自分が携わることのできる領域が広いから」と話す。製作や販売も行うが、メインは修理。どんな音を出したいのか、何を悩んでいるのかを聞き、一つ一つ改善していく。丁寧な仕事ぶりは天満村の仲間からの信頼も厚く、遠方から訪れる演奏家も多い。

弦楽器FUJIYA

コントラバスの注文生産・修理・販売が中心。「プレイヤーにどれだけ合わせられるか」が藤井さんのモットーで、ジャズやクラシックなどあらゆるジャンルの「出したい音」を実現してくれる。☎06-7171-9274　不定休

やね」。そんな人柄に惹かれて、プレイヤーが勉強を兼ねて手伝いに来ることも多々。人を包み込む、やっぱり「チェロ人間」なのである。

山本ストリングハウス

1989年に北大江で開業。ヨーロッパ各国のオールド楽器のリペアを得意とするが、初心者向けの修理やメンテナンスにも対応。ちなみにバイオリンのオーダーメイドだと「うーん120万円ぐらいからかな」。☎06-6945-4199　日・祝休

街の奇跡

「たそコン」思い出アルバム

楽器の街・北大江では毎年秋に「たそがれコンサートWeek（たそコン）」が開かれる。街が舞台の名物イベントは、地元愛によって生まれ、人びとのつながりに育まれてきた。その歩みを実行委員会の岸本知子さんに聞いた。

取材・文／松本 創　若狭健作（共に本誌）

@北大江公園

たそコンの原点は、公園の再生なんです。うちの会社［丸善ボタン］は戦後まもなくこの地で創業し、3代目の私もここで育ったんですが、15年ほど前から子供が減り、北大江公園が荒れ始めたんですね。それを何とかしようと、町会の枠を超えて「北大江地区まちづくり実行委員会」ができ、住民による清掃活動と公園改修が始まりました。

ある日、きれいになった公園でアコーディオンを弾いている人がいて、聞けば「ソハマミュージック」の生徒さんでした。そんな店があるなら、公園のリニューアル記念にコンサートをやろうという話になったんです。私たちはその時まで、楽器商や工房がこんなに集まってるなんて全然知らなかった（笑）。

@パスタフルカフェ マリアン

Records

レビュー／綱本武雄　松本 創（共に本誌）

『ひだまり』
かとうかなこ
（アコーディオン）

4歳でアコーディオンと出会い、高校生で全日本コンクールを制覇、フランス留学を経てデビュー。「魔法の箱」を自在に操り、華麗に歌わせる彼女も、かつて［ソハマミュージック］で教えていた。オリジナルからミュゼットやショーロまで、ひだまりのように温かい曲と音色の作品集。

『Beyond the Sunset』
功刀丈弘&Abyss of Time
（バイオリン）

［Liuteria BATO］でも教えているアイリッシュバイオリンの名手が自身のバンドと録音。表題曲は「スーパーニュースアンカー」のテーマ曲。盟友・葉加瀬太郎作曲のメロディを巧みな節回しで印象深く仕上げている。ブックレットには「馬戸建一の楽器を使っています」のクレジットも。

『life』
綾戸智恵
（ピアノ&ボーカル）

多難な人生を歩み、40代で花開いた大阪弁のジャズシンガーも、若き日は北大江に住み、天満橋のデパ地下を食べ歩いた。2003年の紅白でも歌った十八番「テネシー・ワルツ」から独自に英訳した「夜空ノムコウ」まで、図太くも哀切な歌心と生きざまが染み込んだ綾戸流スタンダード集。

『The Four Seasons』
五嶋 龍
（バイオリン）

7歳でデビューした神童は、バイオリンの師匠だった母親に連れられ、たびたび北大江の楽器工房を訪れた。やはりバイオリニストである姉みどりとともに世界へ名をとどろかす彼が、大定番であるヴィヴァルディの『四季』などを素材に、ケタ外れの才能と独創性を見せつける好盤。

たそコン支える北大江ラバーズ

目指すは「みんなの公園」。

「地元の公園をお披露目できてうれしい」というのは、たそコンを主催する「北大江地区まちづくり実行委員会」の事務局長・吉見孝信さん（64・前列手前）。発端は1998年にさかのぼる。当時はゴミが散乱し、暗い雰囲気だった北大江公園。この惨状に立ち上がった地元住民たちは、以来10年以上も毎月の清掃を欠かさず、会合を開いて公園改修にまでこぎつけた。地元民の想いがこもった公園が、地元の音楽家たちの力を呼び寄せたというわけだ。「地域の総合力ですわ」と胸を張る吉見さん。「音楽のことはよう分からんけど、公園の掃除、役所や警察との話し合いなら任せて」と頼りになる存在だ。

演奏者と街をつなぐ店。

公園に面したビルの１階にある、パスタが自慢のイタリア料理店［マリアン］。もう一つの自慢が店独自のコンサートだ。８年前、同じビルにある［青山ハーブ］の教室発表会を開いたのをきっかけに、年に数回企画するようになった。「音楽はまったくの素人」というマスターの立田安彦さん（54）だが、常連客の楽器商たちの人脈で、バイオリン、ピアノなどの実力派が演奏を繰り広げてきた。この店との縁から、たそコンに出演するようになったミュージシャンも多い。「今までは商売一辺倒だったけど、北大江のお店として街の文化を育てていきたい」と、立田さんは今日も街と音楽をつなぐ。

パスタフルカフェ・マリアン
☎06-6941-7085　7:30AM～10:30PM　日曜休

［丸善ボタン］
岸本知子さん

たそがれコンサートは、街の再生を目指すことから生まれたものなんです！

第１回目は２００６年10月。出演者はソハマさんに紹介してもらったんですが、スピーカーは粗末だし、ビールケースを並べたステージに、運動会みたいなテント（笑）。これを見ていたのが近所の楽器工房の方々です。「僕らに言えば、もっとちゃんとできるのに」と、公園前の［マリアン］で話しておられるのを聞き、マスターがつないでくれた。おかげで、たそコンは出演者も会場もどんどん多彩になり、今では期間も１週間に伸びました。

５回目の昨秋は12会場で20を超すプログラムが開かれました。メイン会場の公園では、なんとオーケストラも。ちょっと気が早いですが、今年も楽しみにしてくださいね。

@マルゼンボタンギャラリー

「天満橋サウンド」を聴くディスクガイド。 Tenmabashi

『Gadget #2』
Gadget
（ハーモニカ）

ハーモニカ中心のアコースティックバンド。チチ松村氏が「煙突からたなびく白い煙」に喩えたジャグ風味のサウンドはゆったりと懐かしく、ブルージーながらポップ。心地良く身体にココロにしみ渡る。時々［ソハマミュージック］を訪れるリーダー花村容寛は、北浜でハーモニカ教室も。

『ルナ・デ・グリス〈灰色の月〉』
ざ・低音一家
（コントラバス）

コントラバスのみで編成する珍しいトリオ（すべて女性）。クラシカルなアンサンブルからジャズ的即興の応酬まで、多彩な奏法＆アレンジで、「緑の下の力持ち」的な楽器の印象をカラフルに塗り替える。［弦楽器FUJIYA］の職人仕事や、練習場所の［鈴木弦楽器］をイメージした曲も。

『ManDream』
井上泰信
（マンドリン）

国内外のコンクールで数々の受賞歴を誇り、［中川弦楽器］では講師を務める若き奏者が地元の京都フィルと共演。ラニエリ作の「マンドリン協奏曲ニ長調」をはじめ、重厚なオーケストラの中を縦横無尽に駆け巡るマンドリンの音色。ソロ楽器としての魅力をたっぷり堪能できる。

『DECARAJUE』
Café Manouche
（ギター、コントラバス）

フランス産ジャズ「マヌーシュ・スウィング」を手本に、極上のスウィングと歌うようなアドリブを追求し続ける弦楽器トリオ。かつて［山本ストリングハウス］で働いたコントラバスの中村尚美いわく「天満橋は私を育ててくれた特別な場所」。そんな縁で「たそコン」にも出演。

広がる 天満橋サウンド

Tenmabashi Sound

楽器の街・北大江が発信源となった
天満橋サウンドは、
周辺の街へも広がっている。
駅へ、水辺へ、土佐堀通へ。
「天満村」を飛び出した音楽は、
新たな街と人を結ぶ。

取材・文／大迫 力　松本 創（共に本誌）

[北浜テラス] アコーディオンナイト

土佐堀川の川床レストランから、カフェやそば屋、歯科医院までを会場に、昨秋初めて開かれた水辺のお月見ライブ。アコーディオン&エレクトリックベースのデュオ「POPOGI」をはじめ、［ソハマミュージック］の協力のもと、6組のアコーディオン奏者・ユニットが北浜一帯を巡回。水面に映る街の灯とアコーディオンのやさしい音色が秋の夜長を演出した。

●今年も9月中旬に開催予定。問い合わせは北浜水辺協議会☎06-6538-4880まで。

[カフェ・コォ] ジャズコンサート

大阪キャッスルホテルの1階にあるカフェでも、第3・4金曜日にジャズコンサートを開催。バラードが中心のピアノ／ボーカルのデュオと、賑やかなクラリネット／コントラバス／ボーカルのトリオが週替わりで出演。ちなみにカフェにはピアノがあり、週末に限り、貸し切りでピアノの発表会やミニコンサートに利用することもできる。

●2月は18日・25日。ライブチャージ1,890円で1ドリンク・1フードオーダー制。☎06-6948-0045

[キャラントキャトル] 生演奏BGM

「パリでの修業時代に見たメトロ（地下鉄）のストリート演奏が忘れられない」というシェフ。昨年末から月に一度、プティコンサートと題して生演奏BGMの日を設けている。［ソハマミュージック］の教室出身の持田桐（アコーディオン）、［鈴木弦楽器］製の愛機を弾く武藤ケンイチ（バイオリン、ギター）など、毎回さまざまな楽器をフィーチュア。

●次回は2月18日（金）、武藤ケンイチのギターを中心に。7:00PM～と8:00PM～。予約が望ましい。☎06-6228-4444

[エル・おおさか] ランチたいむコンサート

毎月第3月曜日、昼休みの時間に合わせたコンサートを開催。無料で入退場も自由という気軽さが人気を呼び、次回でなんと112回目。常連さんに混じって、会議を終えて一息つくサラリーマンの姿も。曲はクラシックが中心で、普段はあまり耳にしない作曲家を取り上げるなど短い時間の中でも毎回さまざまな趣向が凝らされている。

●次回は2月21日（月）0:10PM～0:50PM、クラリネット・ヴィオラ・ピアノのトリオ。☎06-6942-0001

[Ultra 2nd（ウルトラ セカンド）] 音+αライブ

人と街を結ぶさまざまなイベントを仕掛けるカフェでは、不定期でクラシックやジャズのライブも。目指すは「音楽と別の表現を組み合わせたコラボイベント」。昨秋の「たそコン」では、ピアノ、バイオリンの演奏とポールダンスが融合。年末には林未来彦（サックス、フルート）を中心に、難病支援チャリティー「Suite Night Classic」が開かれた。

●次回の音楽関連イベントは現在未定。店やHPで随時告知。☎06-6949-8804

(財)大阪21世紀協会
事業活動に関するお知らせ

21世紀の
懐徳堂
プロジェクト

インテリジェントアレー専門セミナー

都市文化論

受講者
募集中

～文化によるまちおこし活動の理論と実践～

景気が長期にわたり停滞する中、地域の自立が求められ、全国的に地域ブランディングの動きが起こっています。地域にある自然、歴史・文化遺産、伝統行事、食文化など、地域固有の資源を活かした活動から、市民やクリエイターによる新たなまちおこしの動きなどが、様々な人に支えられて展開されています。

今回の講義では、主に大阪、関西で、文化によるまちおこし、あるいは、都市の活性化につながる文化創造はどのように展開するべきか、政策的視点から各当事者の役割や連携を含め、成功へ導く秘訣を、幅広い事例を交えながら検討していきます。

開催日時／1月～3月の隔週木曜日夜（19:00～21:00）全6回
会場／キャンパスポート大阪　大阪市北区梅田1-2-2-400号 大阪駅前第2ビル4階（TEL.06-6210-3620）
参加料／1回ごとの受講が可能（1講座4,000円・税込）
定員（最小催行受講者数）／35名（20名）
申し込み方法／詳細などは特定非営利活動法人 関西社会人大学院連合のホームページをご覧ください。
http://www.kansai-auae.jp/top_seminar/

●2月・3月のプログラム

第3回 2月10日（木）「都市文化政策と地域ブランディング―当事者の役割」
初谷 勇（大阪商業大学総合経営学部、同大学院地域政策研究科教授）

地域ブランディングの対象は様々な地域資源に及びますが、地域で創造された革新的な政策も地域ブランドとなり得るものです。都市文化政策と地域ブランドの関係を、当事者の役割に着目して考えてみます。

プロフィール：大阪大学法学部卒業後、大阪府入庁。大阪大学大学院国際公共政策研究科博士後期課程修了。博士（国際公共政策）。2005年より現職。公共経営学、NPO政策論、自治体政策論などを担当。公共政策と地域ブランドについて研究。（特）大阪NPOセンター理事、日本地方自治研究学会常任理事 等

第4回 2月24日（木）「市民による公共空間のマネジメントについて」
山崎 亮（(株)studio-L 代表取締役）

道路や河川や公園など、まちの公共空間が「誰のものでもない空間」になって久しい。しかし、かつての大阪では河川や橋梁や道路をまちに住む人たちが整備したり管理したりしていました。現代のまちでは、市民が公共空間をマネジメントするのは難しいのでしょうか。市民による公共空間のマネジメント手法とその効果について考えます。

プロフィール：大阪府立大学大学院農学生命科学研究科修了。建築・ランドスケープ設計事務所に勤務後、2005年にstudio-Lを設立。公共空間のデザインに携わるとともに、完成した公共空間を使いこなすためのプログラムデザインやプロジェクトマネジメントに携わる。その際、常にプロジェクトを通じて積極的にまちへと関わる主体を生み出すことを目指している。最近は中山間離島地域のまちづくりや総合計画づくりに関わることが多い。

第5回 3月10日（木）「『経済』と『文化』の戦略的協働による地域活性化」
藤原 明（りそな総合研究所新規事業戦略部プロジェクト・フェロー）

「経済」と密接な関わりを持つ銀行グループがプロデュースする「経済」と「文化」の戦略的協働の豊富なケーススタディを題材に、地域活性化の企画具現化手法をご紹介します。

プロフィール：大阪市立大学商学部卒業。2003年10月にりそな銀行大阪営業推進部プランニングマネージャーに就任。現在、りそな銀行大阪地域アドバイザー・法人ソリューション営業部アドバイザーを兼任している。FM802・大阪府をはじめとする多様な企画連携・産学連携・社学（地域）連携・官民連携による「REENALプロジェクト」を展開中。企業や地域における活性化への取り組みは、各所で反響を呼んでいる。
http://www.reenalstation.net/

第6回 3月24日（木）「大阪の町人文化に学ぶ：懐徳堂や心学の精神とまちおこし」
堀井良殷（大阪21世紀協会理事長）

大阪には民の力でまちをつくってきた伝統があります。18世紀に大阪で始まった精神作興運動は、はからずも日本的資本主義の源流となりました。その基本は社会貢献を行動によって実現することにあります。その水脈を汲み上げ未来にどう生かすのかが、いま問われています。

プロフィール：東京大学卒業。1958年NHK入局。ニューヨーク特派員、大阪放送局長、NHK理事を経て、1999年より現職。その他、大阪文化祭選考委員会会長、社団法人関西経済同友会「水都・大阪」推進委員会共同委員長、心学明誠舎理事長、大阪ブランドコミッティコラボレーションセンターチーフなどを務める。

●「インテリジェントアレー専門セミナー」プログラムへの参画について

（財）大阪21世紀協会では活動の一つとして、大学等の研究機関と連携し「社学連携事業」に取り組んでおり、
平成21年から関西社会人大学院連合主催の上記プログラムに参画しています。
問い合わせ：（財）大阪21世紀協会 事業チーム　森　TEL.06-6942-2004　FAX.06-6942-5945

ナカノシマ大学
NAKANOSHIMA UNIVERSITY

21世紀の
懐徳堂
プロジェクト

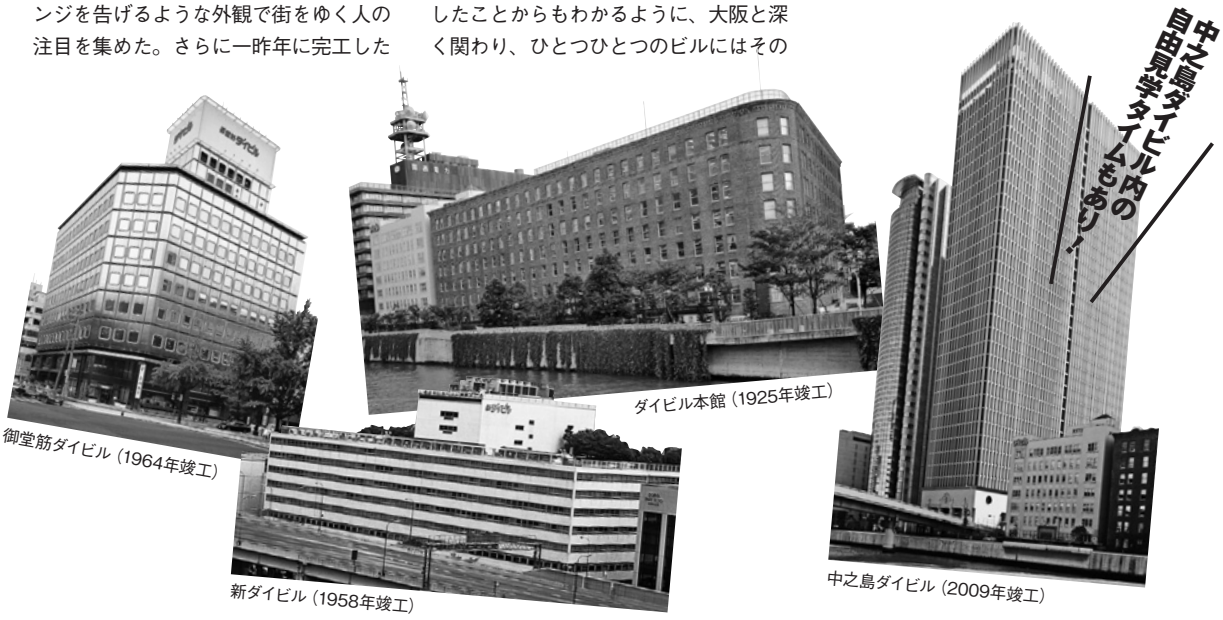
2011年
3月講座

「ダイビルをめぐる冒険」
講師／髙岡伸一・岩田雅希 BMC（ビルマニアカフェ）

近現代の建築史も、大阪の街の移り変わりも「ダイビル」を見ればわかる！

大正14年（1925）、中之島に誕生したダイビル本館は来るべき〝大大阪時代〟を予感させた。昭和33年（1958）、堂島浜に完工した新ダイビル（南館）は、近代建築から現代的なビルへのシフトチェンジを告げるような外観で街をゆく人の注目を集めた。さらに一昨年に完工した中之島ダイビルは、旧い意匠を残しつつも、最先端のビルのモデルを示した。

建築にはいつも時代の動きがはっきりと表れるもの。中でもダイビルは、「株式会社大阪ビルヂング」としてスタートしたことからもわかるように、大阪と深く関わり、ひとつひとつのビルにはその時代の空気感が閉じこめられている。つまり、ダイビルを見れば大阪の街の移り変わりがわかるのだ。島民でもおなじみ、ビルマニアカフェの髙岡伸一さん、岩田雅希さんにその見方を教えてもらおう。



御堂筋ダイビル（1964年竣工）
ダイビル本館（1925年竣工）
新ダイビル（1958年竣工）
中之島ダイビル（2009年竣工）

募集要項

「ダイビルをめぐる冒険」

講師／髙岡伸一・岩田雅希（ビルマニアカフェ）
日時／3月18日（金） 6:30PM ～ 8:00PM（開場6:00PM ～）
※8:00PM ～ 8:30PMまで自由見学タイム
会場／中之島ダイビル　受講料／1,000円　定員／100名
主催／ナカノシマ大学事務局
協賛／ダイビル株式会社　関西電力株式会社
協力／大阪21世紀協会

お名前・ご住所・電話番号を明記の上、下記までハガキ、ファックス、もしくはHP内の応募フォームからお申し込みください。ハガキ、ファックスについては、複数名でご参加希望の場合は、人数分の必要事項を明記してください。ハガキ、ファックスでお申し込みの方は、講座名を必ずお書き添え下さい。

〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
「ナカノシマ大学3月講座」受付係　FAX.06-4799-1341

※先着順で受付を確認し次第、順次、受講票をお送りします。
※定員に達した時点で申し込みは締め切らせていただきます。

ナカノシマ大学の最新情報は
http://www.nakanoshima-univ.com

ケータイからは
こちら！→

お問い合わせ☎06-4799-1340
（ナカノシマ大学事務局）

受講生は長年のファンから、あまり飲めない人まで。が、皆一様に「こんなに深い世界とは」と感激の声。

2010年12月7日(火)

「ウイスキーがお好きでしょ?」

@中央電気倶楽部

講師／福士 収（サントリー山崎蒸溜所）

ハイボールブームでじわり復権するウイスキー、そして、堂島〜中之島と縁深い島民企業・サントリーの歩みにスポットを当てたナカノシマ大学12月講座。「日本ウイスキーの聖地」山崎蒸溜所から駆けつけてくれた講師は、品質管理ゼネラルマネージャーの福士収さん。ベテランの妙味あふれるトークと、4銘柄のシングルモルトを飲み比べるテイスティング体験。超満員のレトロ食堂には、芳醇な香りとシアワセの吐息があふれ、「ウイスキーがお好きでしょ?」と会話弾む師走の一夜となった。

1923年（大正12）開設の山崎蒸溜所は、千利休が茶室を築いた名水の源、天王山の山すそにあり、3本の川が合流して、霧の多い湿潤な気候。水よし、貯蔵環境よし、ウイスキーづくりには最適の土地だ。ここで国産ウイスキー第一号「白札」がつくられ、続いて「角瓶」が世に出るに至って、日本のウイスキーは本格軌道に乗った。

「近年、シングルモルト『山崎』が海外で多くの賞を受け、ヨーロッパをはじめ、中国や台湾でも売り上げが伸びています」と福士さん。「シングルモルトは風土やつくり手のこだわりが色濃く反映される」というから、山崎に蒸溜所を置いた創業者・鳥井信治郎の慧眼と、そこに蓄積された技術の高さが分かる。

そんな話を枕に、いよいよテイスティングへ。用意されたのは、同社の製品から、その「山崎」と山梨でつくられる「白州」。本場スコットランドのスペイサイド地区を代表する「マッカラン」、アイラ島で生まれる「ボウモア」。いずれも12年物で、色・香り・味わい・余韻を比べようという趣向。

つくり手の視点と飲み手の心を兼ね備えた福士さんのトークは「面白くてためになる」と大好評。

ドライフルーツのように甘く上品な香りのマッカラン。バニラ香をはじめ、幾重にも香味が押し寄せる山崎。スモーキーな香りとダークチョコのような味わいのボウモア。スモーキーな中にも、ふっくらした甘みをあわせ持つ白州。受講生たちは、グラスをのぞき込み、水を注いでみたり、舌の上で転がしたりしながら、その奥深い世界を堪能する。

「生ガキのソースにボウモア1滴」「焼鳥はタレなら山崎、塩なら白州」など料理との相性、さらには美味しいハイボールの作り方まで惜しげもなく教えてくれた福士さんいわく、「ウイスキーは仕込んでから世に出るまで長い時間がかかる。先輩のつくったものを私が仕上げ、私がつくったものを10数年後に後輩が仕上げるんです」。しみじみとした味わい深さはそんなところから来るのだろう。

今回提供されたシングルモルト四天王。気になる方は、堂島浜のサントリー本社1階［ウイスキーショップ W.］で試飲（有料）も購入もできます。

2月の時間割 ナカノシマ大学ほか、中之島周辺の「学びの場」の時間割をご紹介。

19	土	1:00PM〜 3:00PM	**「いとのジュエリー《やわらかブレスレット》をつくりましょう」coniconiはまくにこ（フェルト・ジュエリー作家）** 参加費:2,625円 （材料費込み） 各回5名（予約制） 大阪芸大大学院で染色を教える作家と、手紡ぎの糸を編んで軽くてやわらかなブレスレットをつくります。	会場 **E**
20	日	10:15AM〜 1:15PM／ 2:00PM〜 5:00PM	**「トリ・スクール 笑いと日本の現代美術」岡山 拓（美術家）** 受講料:2,500円（1ドリンク付） 展覧会図録を参照しながら、初めての人でも解るようにゆっくりお茶をしながら美術史や各種ムーブメントについてお話をします。	会場 **F**
20	日	2:00PM〜 4:00PM／ 4:00PM〜 7:00PM	**「紅茶のセミナー」Yuriko（ティーコーディネーター）** 参加料:2,000円（お菓子付き） シンプルなストレートティーの種類、ミルクやストレートの相性を知るきっかけにも。基本の淹れ方のレクチャー&試飲も。	会場 **B**
21	月	7:00PM〜 8:30PM	**「おうち教室」納多寿恵子（紅茶教室アトリエ希果主宰）** 受講料:2,000円（紅茶・お菓子付き） 寒い季節、おうちでゆったりとした時間を過ごすための提案をします。美味しいスパイスティー、チャイの淹れ方を講習します。	会場 **D**
26	土	2:30PM〜 4:30PM	**「ワイン講座〜ロワール河の産地を遡って」N.Lee（ワインコーディネイター／ボンバール江戸堀店主）** 受講料:2,000円 ロワール地方のワインを3〜4種テイスティングしながら、貴方のワインライフをより充実させる方法をご提案します。	会場 **D**
26	土	1:00PM〜 4:00PM	**「スワンのブローチ作りのワークショップ」annas川畑杏奈（刺繍作家）** 参加費:3,200円＋材料費1,000円 5名 （予約制） 『annasのはじめての刺しゅう小物』の出版イベントとして、材料が付録になっているスワンのブローチを一緒に作ります。	会場 **E**
27	日	1:00PM〜 4:00PM	**「ダーラナホースのブローチ作りのワークショップ」annas川畑杏奈（刺繍作家）** 参加費:3,200円＋材料費1,000円 5名（予約制） 『annasのはじめての刺しゅう小物』の出版イベントとして、幸運を呼ぶという馬のモチーフ使ったブローチ作りをします。	会場 **E**

A common cafe
大阪市北区中崎西1-1-6
吉村ビルB1F
☎06-6371-1800
http://www.talkin-about.com/cafe/

B 雑貨屋Biscuit cafe
大阪市北区中崎西1-9-24
中崎ハウス202
☎090-9254-1223
http://biscuit-cafe.com/

C 西梅田サロン文化大学
大阪市北区梅田2丁目4-9
ブリーゼブリーゼ4F
お問合せ・お申し込み：
http://nishiumeda.blogspot.com/

D フレイムハウス
大阪市中央区淡路町1-6-4
☎06-6226-0107
misalele39@gmail.com
http://www.katana.cx/~fureimu/

E タピエスタイル
大阪市中央区南船場4-4-17 B1
☎06-4963-7450
http://www5f.biglobe.ne.jp/~tapie/

F ミリバール
大阪市西区立売堀1-12-17 artniks bld.
☎06-6531-7811
http://www.artniks.jp/millibar/

G ポーポー屋
大阪市西区北堀江1-14-21
鳥かごビルヂング2F
☎06-6531-7827
http;// www2.odn.ne.jp/ippuku-popo/

H スタンダードブックストア
大阪市中央区西心斎橋2-2-12
クリスタグランドビル1F BF
☎06-6484-2239
http://www.standardbookstore.com/

レクチャー&対話プログラム「ラボカフェ」

読書・哲学・鉄道など、毎月リアルタイムなテーマでカフェ風ワークショップを行っている、
京阪電車中之島線なにわ橋駅地下1階の［アートエリアB1］。2月のラインナップはこんな感じ。

2	水	7:00PM〜 9:00PM	**中之島哲学コレージュ／哲学カフェ「言葉で傷つくということ」** 定員:50名 2月〜3月の連続テーマは「言葉と／で…」。言葉のいろいろな側面について、考え、味わっていきます。第一弾は「言葉で傷つく」ということについて。言葉で傷つくとはどのような経験なのか、言葉を発することに含まれる何が人を傷つけるのか議論をします。
9	水	7:00PM〜 9:00PM	**ワークショップデザイナー・カフェ「ワークショップと未来への対話」** 定員:30名 開講から2年を迎えるワークショップデザイナー育成プログラム。大阪大学では4期を通じ、約100名のワークショップデザイナーが誕生、当カフェではプログラム紹介や今後の展開をプログラム開発ディレクターの平田オリザやデザイナーらと共にお話しします。
16	水	7:00PM〜 9:00PM	**スポーツカフェ・パシフィック「リーグを応援する精神」** 定員:30名 プロ野球パ・リーグを中心に、スポーツについて自由に語り合う新しいこころみです。セ・リーグ球団のファンにはない「リーグを応援する」という意識はなぜ生まれるのか。ファン組織「純パの会」代表にお越しいただき、女性の視線も意識しながら話し合います。
18	金	7:00PM〜 9:00PM	**マンガカフェ9「恋愛!恋愛!恋愛!」** 定員:50名 バレンタイン月はマンガで恋愛を語り合いましょう。メインゲストに『恋愛の社会学ー「遊び」とロマンティック・ラブの変容』の著者・谷本奈穂さんを迎え、マンガに現れた恋愛模様、好きなシーン、きゅんと来るセリフなどについて語り合います。
23	水	7:00PM〜 9:00PM	**中之島哲学コレージュ特別企画:対談 鷲田清一×西山雄二「哲学と大学の未来」** 定員:100名 臨床哲学の提唱者・鷲田清一さんと、フランス・パリの〈国際哲学コレージュ〉にカメラを向けた哲学者・西山雄二さんをお招きし、哲学と大学の未来について語り合っていただきます。
24	木	7:00PM〜 9:00PM	**鉄道カフェ「ディープ京阪!」** 定員: 30名 我こそは! という鉄道ファンから、全くの初心者まで、幅広い層が参加する鉄道カフェ。今回は京阪電車の生き字引!? といわれる京阪電車の社員をゲストにお迎えし、京阪電車にまつわるディープな対話で盛り上がりたいと思います!
27	日	2:00PM〜 5:00PM	**中之島哲学コレージュ／哲学セミナー「言葉のスケッチ」** 定員:50名 「言葉と／で…」企画の第2弾は「言葉のスケッチ」。全盲の美術家・光島貴之さんが参加者の言葉をもとにその場で作品を制作し、終了後はその作品について話したいと思います。どんな言葉から、どんな作品が生まれ、また言葉がひきだされるのでしょうか。

会場／アートエリアB1　参加費／すべて無料　開場／それぞれ開始30分前から　問い合わせ／［カフェの内容について］大阪大学コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）☎06-6850-6632　［場所などについて］アートエリアB1 ☎06-6226-4006　※内容は予告なく変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

大阪カルチャークラスター!!

大阪カルチャークラスター!!（OCC!!）では、大阪にあるカフェやギャラリーなどで独自に企画・運営を行っている講座・ワークショップを一堂に集め、紹介していきます。
※大阪カルチャークラスター!!では、参加店舗を募集中です。お問い合わせは singles@do.ai（common cafe）まで。

3	木	7:30PM〜	**「green drinks 関西Vol.7　心の平穏のコツ〝スマコロジー〟のすすめ」** 参加費: 1,000円（ワンドリンク付き） 桂春蝶さんに落語一席と、「スマイル」と「サイコロジー(心理学)」を組み合わせた「スマコロジー」についてお話しいただきます。	会場H
11	金・祝	2:00PM〜 3:30PM／ 4:00PM〜 5:30PM	**「ハートの苔玉」まつもと（こけだまと緑の店「三日月豆」店主）** 参加料:3,800円（中国茶とお菓子付き） 立体ハート型の苔玉はカワイイ〜と評判です。贈り物に〜♪ 自分のために〜♪ いかがでしょう。	会場G
11・12	金・土	金1:00PM〜 3:00PM 4:30PM〜 6:30PM 土4:00PM〜 6:00PM	**デコレーションワークショップ」haco.×インスタントオトメ（ホソダタカコ・ドイコマキ:布小物作家）** 参加費:2,500円（材料費・お茶・中崎町「Miroir」のスイーツ付き）　各回5名（予約制） 「スロウ:ケミカルデニムのでかバッグ」をあなたらしくデコレーションしてみよう!	会場E
13	日	11:00AM〜 3:00PM	**「我が家のポトフ!」中東ゆうこ（「ポーポー屋」店主）** 参加料:3,800円（お土産付き） お肉と野菜の美味しい食べ方をお伝えします。もちろん極上スープも♪　応用も利くので、大切なレシピのひとつに。	会場G
15	火	7:30PM〜 9:00PM	**「石原正一のヨミすぎ!〜古今東西名作朗読会〜」石原正一（役者・作演出家）** 受講料:1,500円 古今東西の名作を参加者全員で読みまくる夜です。具体的に配役に分けて、名作文章の世界を楽しんでいただきます。	会場A
17	木	7:00PM〜 8:30PM	**「落語を楽しむ〜入口遊びで、出口は文化」桂蝶六（落語家）** 受講料:2,000円（テキスト付き） 声を出す、落語に学ぶ、落語を聴く。落語初心者の方対象。普段の話し方にも役立ちますよ。	会場D
18	金	7:00PM〜 8:30PM	**「手芸サロン」なかごしあつこ**　受講料:1,500円　定員:8名 なかごしさんにフェルトを使ったアニマルペンのつくり方を教わります。自分だけのかわいいペンをつくりましょう。	会場C

大阪大学 21世紀懐徳堂

大阪大学21世紀懐徳堂

●Handai-Asahi中之島塾

大阪大学が朝日カルチャーセンターと共催しているセミナーです。

18	金	1:30PM〜 3:00PM	**「おもしろ日本語学〜ことばとジェンダー」小矢野 哲夫（大阪大学大学院言語文化研究科教授）** 受講料:1,575円　平等であるのが理想の男女関係ですが、ことばの面では古い価値観がしみついています。日本語を現実社会の中に位置づけて観察し、ふだんの言葉遣いを反省してみましょう。
19・3/5	土	10:30AM〜 12:00PM	**「“からだ”と“あたま”の鍛え方 part2〜私たちは、本当に自分のことをわかっている?」七五三木 聡（大阪大学大学院医学系研究科准教授）** 受講料:3,150円（全2回）　私たちは自分のことを“わかっているようで本当はわかっていなかった”ことが脳科学で明らかになってきました。なぜそうなのかを理解することで新しい考え方が見つかります。

会場／大阪大学中之島センター　申し込み・問い合わせ／朝日カルチャーセンター（中之島）☎06-6222-5224　http://www.asahi-culture.com/nakanoshima/

●大阪大学21世紀懐徳堂i-spot講座

大阪大学が大阪市と共同で淀屋橋odona2階「アイ・スポット」で開催する講座です。

16	水	6:30PM〜 8:00PM	**「サルを見て人を知るーサルの子育てからわかること」中道正之（大阪大学大学院人間科学研究科教授）** 定員:30名　子の育て方は、母ザルによって違います。「進化の隣人」であるサルの子育てを通してサルの心に触れ、そして人の子育ても見つめ直せるのではないでしょうか。
3/7	月	6:30PM〜 8:30PM	**「大阪夜景巡り 船場ー大阪の街の魅力・再発見!ー」加賀有津子（大阪大学大学院工学研究科教授）** 定員:20名　夜の船場界隈の近代建物を訪ね、夜景の魅力を探ります。大阪倶楽部などを見学し、普段開放していない内部空間も一部ご覧いただく予定です。（※一部変更になる可能性あり）

会場／アイ・スポット　受講料／無料　申し込み・問い合わせ／アイ・スポット☎06-4866-6803　※各回、実施日の1ヶ月前から先着順で受付

●大阪大学×大阪ガス アカデミクッキング

「専門分野の講義」&「料理実習」で“学問するココロ”が実践的に身につきます。

3/18	金	6:30PM〜 9:00PM	**「ホットドッグ学概論〜羊腸に詰められた挽肉と文化」小倉明彦（大阪大学大学院生命機能研究科教授）** ソーセージにまつわる歴史や文化、生物学を学んだ後、腸詰めソーセージを手作りします。

会場／大阪ガスクッキングスクール千里　受講料／1,500円　定員／24名　申し込み・問い合わせ／大阪ガスクッキングスクール千里
※2月7日（月）からweb優先受付開始　☎06-6871-8561　http://www.og-cookingschool.com/

医師国家試験が終わって1カ月後、私は学生時代からつき合っていた彼女と結婚した。この連載のはじめのほうで書いた、ダンスパーティの薄暗がりで美人と見まちがえて声をかけてしまった女性だ。

卒業してすぐに結婚した同級生は何人かいたが、なかには式のときにはすでに新婦がオメデタという者もいた。逆算すると、国家試験勉強の真っ最中の妊娠ということがわかり、「みんなが必死で勉強してるときに、何をやっとったんや」とヒンシュクを買った。

結婚式は北区中津にある東洋ホテル（現ラマダホテル）で挙げた。まだ病院での研修がはじまる前だったので、仕事関係の来賓はなく、親戚と友人だけの気楽な披露宴だった。

余談だが、この東洋ホテルには粋な計らいがあった。結婚1周年目に、予告なしに無料のディナー券が送られてきたのだ。はじめからサービスに入れておけば宣伝にもなるのに、式の前には説明がなかったので、招待状が届いたときにはすごく得をした気分になった。

さらには驚いたことに、結婚5周年目にもまた予告なしに招待状が届いた。しかも、このときは子どもも同伴可。なんとも気前のいいことである。行ってみると、満一周年目のときより招待客が少なかった。5年続かなかったカップルが何組かあったということだろう。

新婚旅行はヨーロッパに行った。ツアーはいやなので、二人だけの個人旅行にした。まずスイスに着いて、登山電車でアルプスのユングラウヨッホに登り、次にドイツに入って、ミュンヘンからロマンチック街道を巡り、最後はパリで美術館やレビューを堪能した。

と書けば、楽しい旅行のように思えるかもしれないが、御多分にもれず、スイスではいきなり大げんかをし、ドイツでは迷子になりかけ、パリではパスポートや現金を入れたバッグをレストランに置き忘れて青くなった。幸い無事にもどってきたが、新婚旅行でのこういう失態は、新妻に「この人は頼りない。わたしがしっかりしなければダメ」と気を引き締めさせる効果もあって悪くはないと、自分を慰めた。

旅行から帰ると、仲人や妻の実家や仕事の関係先など、いろいろ挨拶まわりが待っていた。

妻の実家（今は兵庫県加東市になっているが、当時は社町）では、庭に開け放った座敷に金屏風と分厚い座布団が据えられ、そこに夫婦で座らされた。それを村人が入れ替わり立ち替わり見に来て、まるで動物園のパンダになったような気分だった。

ある大先輩の開業医に挨拶に行くと、庭に併設したバラ園に案内してくれた。よく晴れた日曜日の午後で、美しいバラの間を巡ると、それだけで優雅な気分になった。

しばらくすると、母屋のほうからかすかに電話のベルが聞こえてきた。夫人が出るのかと思ったが、その気配がない。先輩医師も知らん顔をしている。60代のその医師は耳が遠くなりか

中之島ふらふら青春記㉑ 久坂部 羊

結婚——「どうせ患者や」の一言に衝撃。

けているのかと思い、「電話みたいですよ」と注意を促した。するとさも面倒そうに、「どうせ患者や。放っといたらそのうちあきらめる」と言ったのだ。

その医師は自宅で開業していて、電話は医院用と自宅用の2本引いていてあるらしかった。ベルの鳴る場所で、どちらの電話かがわかる。そのとき鳴っていたのは、医院用の電話だったようだ。

「どうせ患者や」という一言に、私はひどいショックを受けた。日曜日に電話をしてくるのだから、急病にちがいない。電話の向こうでは患者が必死に助けを求めているはずだ。なのに居留守を使うとはどういうことか。

もしかして、私たち夫婦に気遣って電話に出ないのか。そう思ったが、若輩もいいところの私に、大ベテランの医師が気を遣うのも不自然だ。それに、電話を無視する医師の表情が、何とも言えない苦々しさに満ちているのも不思議だった。用件もわからないのに、なぜあんな不愉快そうな顔をするのか。

先輩医師は、私の疑問に気づくようすもなく、悠然とバラ園を散策し続けた。私は気が気ではなかったが、しばらくすると、電話のベルがふっつりと止んだ。電話の主の落胆が耳に残るような虚しい切れ方だった。

私はその医師のでっぷり太った背中と血色のいい禿頭を眺めながら、激しい憤りを感じた。この医師は開業医としては成功し、立派なバラ園のある豪邸に住んでいるが、医師としては最低だ。自分はこれから医師の道を歩みはじめるが、患者に居留守を使うような医師にだけはぜったいなるまいと、固く心に誓った。

それから今年でちょうど30年。居留守を使った先輩医師をひどいと思う気持は変わらないが、批判する気持はまったく同じというわけではない。

私は卒業後、最初に外科で研修を受け、次に麻酔科に移り、ふたたび外科にもどって、さらに外務省の医務官になり、帰国後は老人医療の分野に入った。その間、いろいろな患者を診察した。検査の予約をすっぽかす人、予約なしに長時間の説明を聞きにくる人、病院の規則を守らない人、診療費を払わない人、薬を勝手に捨てる人、連日病院に泊まり込んで夜中まで治療しているのに文句を言う人、自分の都合で夜間や休日に救急外来を受診する人、軽症なのに呼びつける人、呼びつけておいて「もういいわ」と診察を断る人。

そういう患者や家族に遭遇するたびに悩む。そんなひどい人ばかりではないと自分に言い聞かせるが、たぶんそのときの顔は、「どうせ患者や」と居留守を使ったあの先輩医師と同じように、苦々しく歪んでいるにちがいない。彼が電話に出なかったのも、そういうひどい患者に情熱を砕かれたからではないか。

もちろん、いくらひどい患者がいたからといって、医師が患者の電話に居留守を使ってよいはずはない。それはぜったいに許されない。わかってはいるけれど、若いころのように、あの先輩医師は最低だと、単純には思えなくなってしまった。

今は在宅医療で患者を診ながら、ケータイが鳴るたびにドキリとする。重症ならすぐ診察に行かなければならない。呼吸困難とか、けいれんとか、私が駆けつけて役に立ったときは、たとえ深夜でも休日でも、まったく疲れを感じない。感謝の言葉をもらえたら、素直によかったと思える。

逆に、行ってみたら大したことがなかったり、患者の勘ちがいだったり、医者なら来て当然というような顔をされると、疲れる。

患者や家族に「でも心配だったんです」と訴えられれば、何も言えない。にっこり笑って「いいですよ。心配ならいつでも呼んで下さい。すぐに駆けつけますから」と言ってあげたい。しかし、嘘はつけない。思いやりと親切心に満ちていた若き日の情熱と体力が、半分でもよみがえってくれたらいいのに。

くさかべよう　1955年生まれ。大阪大学医学部卒業。
麻酔医、外科医、在外公館での医務官としても勤務した後、2003年『廃用身』（幻冬舎文庫）でデビュー。
現代医療への提言と生きること・死ぬことについて考える
契機に満ちた作風が人気を呼び『破裂』は10万部を超えるヒットに。
昨年、編集者といっしょにウィーン取材に行った長編の執筆に没頭中。ウィーン、東京、神戸を舞台に
三つの物語が同時進行しながら大団円を迎える予定（結末はまだ未定ですが・笑）。

取材・文／大迫 力（本誌）

京阪沿線は「絵になる風景」の宝庫だった。

京阪電車北浜駅のホームに降りると、線路越しの壁にたくさんの絵が飾られているのが見える。題材は中之島界隈のほか、大阪・京都の京阪沿線の歴史的建築物や橋など。実はこの風景画は、京阪電車の社員によって描かれたものである。

作者は経営統括室の広報宣伝担当係長である水津俊和さん。昭和49年（1974）に入社し車掌として勤務していたが、当時の広報宣伝担当部長に抜擢され、それ以来、宣伝畑を歩んでいる。「その部長が京都大学の美学専攻の卒業でね。僕が大阪市立工芸高校の美術課卒業なのを知って面白そうだと思ったんでしょうね」と振り返る。

この上司との縁がきっかけで、社内外を問わずさまざまな場面で水津さんの絵が起用されることになった。特急車内にかけられる車額絵や「スルッとKANSAI K-CARD」シリーズ、また平成5年から担当している社内報の表紙絵は約200点にのぼる。作品の一部は京阪電車開業90周年の折りに絵画集『鉛筆コンテが観た京阪沿線の建築物』として発売され、早々に完売した。「文化人でも芸術家でも、なるべく関西で活躍している人を起用するのが社風としてあるんです」と水津さんが話すように、身近なところに目を向ける会社の姿勢も、作品が世に出る機会を支えているようだ。

「おけいはん」キャンペーンや、高校の同級生である作家・若一光司氏の文章が入る「京阪沿線にこの塔あり」シリーズのポスター制作などに従事する。ちなみに若一氏を介して知り合った小説家の久坂部羊氏（P14）とは、年に1回神鍋高原へ野球とテニスをしにいく15年来の友人。

これが鉛筆コンテ。ニューヨークでの開催のオファーもあったそうで、「こういうタッチは外国人にも受けるのかな」と水津さん。

水津さんの絵の特徴は、鉛筆コンテという画材で塗り重ねられる黒い線だ。ドローイングと呼ばれるこの手法によって、建物の年季の入った雰囲気を強く印象づけると同時に、透明水彩絵の具の淡い色合いを引き立てている。現在も社業のかたわら、「日本の美景」をテーマに全国各地を訪ね歩き、月に約5枚のペースで作品を生み出し続けている。

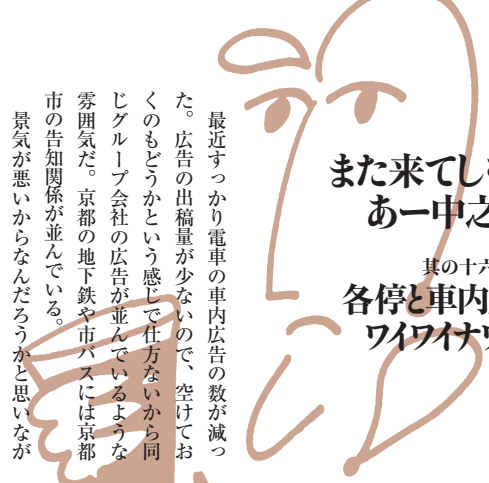
そんな水津さんをして、「いくらでも描きたくなる材料がある」と言わしめるのが京阪沿線だ。2月21日からアサコムホールで始まる展覧会「鉛筆コンテが観た京阪沿線の建築物50選」の出品作にも、有名社寺だけではなく「ほたるまちの朝方」「橋本駅付近の町家」「石山商店街」といった何気ない街角の風景が多く見られる。それほど絵になる風景が多いということなのだろう。沿線で生活を送る者にとっては、自分の街が誉められているようで嬉しい。

「鉛筆コンテが観た京阪沿線の建築物50選」
2月21日（月）～3月4日（金）、朝日新聞大阪本社1階 アサコムホールで開催。詳細はP19にも。

また来てしもたわ、あー中之島。

バッキー・イノウエ

其の十六
各停と車内広告とワイワイナワイモ。



最近すっかり電車の車内広告の数が減った。広告の出稿量が少ないので、空けておくのもどうかという感じで仕方ないから同じグループ会社の広告が並んでいるような雰囲気だ。京都の地下鉄や市バスには京都市の告知関係が並んでいる。

景気が悪いからなんだろうかと思いながら、淋しそうに電車の中を歩いて車内広告を見て歩いた。そうすると下を向いている人が多いなと改めて思った。みんな携帯を見ている。しまいに携帯の小さな画面の中に入りそうな感じだ。本を読んでいる人は昔よりかなり少なくなった。新聞を読んでいる人はもっと少なくなった。窓の外を見ている人が偉く見える。顔がさびしそうに輝いている。俺は電車の車内の広告を見ながらスポーツ新聞を見ながら水を飲みながら窓の外の景色を見ている。チョット行儀が悪い。駅構内の広告もずいぶん減った。

俺は子供の頃から広告が好きだった。資生堂の広告やサントリーの広告に、大人の匂いがして何度も息が止まりそうになった。小学生の時はその大人の匂いを俺なりの言葉でツレやらにもわかるように訳して、同級生や近所の連中に大人の匂いを嗅がせていつもアドバンテージをとっていた。中学生の頃は『広告批評』をよく話のネタにしていた。サンアドやライトパブリシティという広告制作会社の名前もすでに知っていた。今思えば、ませたイヤなガキである、本当に。

そんな子供がいろいろあって今も京阪電車に乗って車内の広告を見ている。シアワセなことだ。外に出ればいろいろある。見知らぬ人と電車に乗り合わす。でもそれは見知らぬ人ではなく同じ電車に乗っている人。まあいろいろあるわいな。ワイワイナワイモ。

新年を迎えて少しだけ間が空いた時に三条から京阪に乗って中書島に向かった。12月は忙しくて散髪に行けなかったので、中書島で散髪してもらうため午後の3時頃京阪に乗った（お昼ではなく夜ではなく午後の3時頃に京阪に乗るところがダンディーなところだ）。京阪は綺麗になった。オレンジ色の特急と緑色の各停だけではなく、シックな紺色系の電車も登場している。椅子もビシッとしていてかっこいい。しかし俺は緑色の横長ベンチの各停電車がやっぱり好きだ。一番遅いがやさしくあたたかい。

広告の効果はいろいろあると思うけど、広告主の、広告を作っている奴の、その広告に関連するすべての人の、意気を感じてその商品が動く時は、売る側も買う側もとてもシアワセだと思う。各停しか止まらないような駅にある会社や店が広告を出せるようにできないのかなあ。携帯はおもしろいけどもう飽きてきた。もういい。

ばっきー・いのうえ　京都・錦市場の漬物店［錦・高倉屋］店主にして日本初の酒場ライター。雑誌『Meets Regional』などで名フレーズを量産中。近著『京都 店 特撰』が絶賛発売中。

西梅田で見る、聞く、学ぶ ブリーゼブリーゼ2月の時間割

BREEZÉ BREEZÉ
http://breeze-breeze.jp/

DESIGN
■2月11日（祝・金）～27日（日）
BREEZÉ BREEZÉ×この街のクリエイター
「クリエイティブ・エキスポ」
大阪で活躍するクリエイターが、クリエイティブやデザインの魅力を発信。日本の伝統文化「鏡開き」に使われる「菰樽（こもだる）」をモダンな感覚でデザインする展示のほか、モードなイラストと「蝶の標本」を組み合わせた新感覚のインテリア、独特の風合いやレトロ感で注目されている「活版印刷」のディスプレーなど。著名クリエイターによるトークイベントも開催。
11:00AM ～ 9:00PM
会場／2・3・4階パブリックスペース

CONCERT
■2月11日（祝・金）～13日（日）
「バレンタイン コンサート」
テナーサックスやハンドベル、バイオリンで奏でるラブバラードを無料でお楽しみいただける音楽会です。
1:45PM～／3:15PM～／4:45PM～（各回30分）
会場／1階メディアコート

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28					

■2月11日（祝・金）「テナーサックスで奏でるラブバラード」
荒崎英一郎（テナーサックス）、ベース（中嶋明彦）、ピアノ（金谷こうすけ）
■2月12日（土）「ハンドベルで奏でるラブバラード」
ベルクレール（ハンドベル、ギター、ピアノ）
■2月13日（日）「バイオリンで奏でるラブバラード」
ユーマ（バイオリン）、中村尚美（ベース）、金谷こうすけ（ピアノ）

FASHION
■2月4日（金）～6日（日）
「きものフェア」
ユナイテッドアローズがレディース＆メンズのきものをご提案いたします。
11:00AM ～ 9:00PM
会場／1階メディアコート

FILMSHOW&LIVE
■2月11日（祝・金）
「Alejandra Quesada 2011SS filmshow +OORUTAICHI in store LIVE」

新作入荷のこの日アレハンドラ・2011SS「MEXICO Collection」film showを開催致します。滅多にお目にかかれないMEXICO Collection。新作着用のモデルさん達を見てスタイリングの参考にしてみては！ そして 当日メヒコチード発の音楽イベントでも登場の「OORUTAICHI」インストアLIVEも行います。
会場／3階ランプ ハラジュク ト メヒコ チード
（☎06-4797-0227）
※詳細はhttp://www.lamp-harajuku.com

中之島へ光を見に行く。
vol.8

中之島ガーデンブリッジ

取材・文／花村周寛
（ランドスケープデザイナー／大阪府立大学准教授）
取材協力／大阪市建設局
水都大阪・光のまちづくり企画推進委員会
関西電力株式会社

光と同時に、人々の心の中に愛を灯すライティング。

橋に光があてられる理由が必ずしも特徴的な形にあるとは限らない。多くの場合、ライトアップやライティングがなされる橋というのは立面にどこか特徴を持っている。美しいアーチや無骨な骨組みがあったりと、光をあてるべきデザインがある。しかし一昨年からライティングが施されている中之島ガーデンブリッジは、それほど特徴のある橋ではない。桁橋と言われる構造で、全国の8割以上の橋はこの形状をしているのだが、こうした桁橋がライティングされている事例はほとんど見られない。ではなぜこの橋に光があたるようになったのだろうか。

中之島ガーデンブリッジは平成2年に完成した比較的新しい橋だ。もともとは防災的な観点から造られ、広域避難場所として指定されている中之島公園へ北新地方面から逃げ込むための避難路を確保するという目的を持つ。しかし単なる防災機能として人々に迎え入れられたわけではない。それを最も象徴的にあらわすのが「橋洗い」だ。2005年から毎年行われているイベントで、地域の人が主体となり300人以上が集まり橋面をブラシで磨き、欄干を拭き掃除し、徹底的に洗う。こうした例は全国でも珍しいが、江戸期の大坂には町人によってかけられた橋が多かったことを考えればうなずける。

人々の想いと平行して、阪神高速道路の橋脚や大江橋のライトアップ、川に向けて設置された街河灯（がいこうとう）など、周囲には次々と光が灯されていった。そんな中、この橋のライティングに大阪市が踏み切ったのは必然だった。

「水都大阪2009」の際に実証実験としてライティングが施されたのをきっかけに、堂島川を360度取り囲む光の風景が出現した。大江橋の歴史性のある光とは対照的に、都会的でシャープなライティングが目指され、桁に沿わせた一本のラインが、川を渡る夜の切れ込みとして中之島から北新地へと人々を誘う。また阪神高速のライトアップと連動し、冬にはオレンジ、夏には青など色が変わる演出もなされている。さらにこれも阪神高速と共に、日没から午後10時まで毎時00分・30分から5分間、桁下が7色にライティングされる。呼吸を合わせて光を水面に落とす姿は、まるで会話をするようだ。

ガーデンブリッジのライティングを待っていたかのように、一昨年の秋には「光の祈り橋伝説」、昨年は「中之島ガーデンJAZZブリッジ」などのイベントが催され、夜もますます愛されるようになった。橋に光があたることに形の珍しさは理由の一つでしかない。ガーデンブリッジは形ではなく、この橋への人々の愛に光が灯されたのだ。それによって、さらに人はこの橋を愛していくのだと思う。

今月のスポットライト!
桁下に沿って一直線に伸びるLEDライト。白が使われるのは珍しいが、遠くから見るとよく映えるのがわかる。

トウミン月報

2011年2月1日発行

京阪沿線の風景を描いた作品展！

京阪沿線にある建築物や神社仏閣、町家などを描く水津俊和さんの作品展が今月21日から朝日新聞大阪本社1階のアサコムホールで開催される。

水津さんはP16でもご紹介したように、京阪電車の社員でもある。今回出品される作品はすべて、京阪電車の社内報『京阪』の表紙絵として描かれたもので、200点にのぼる原画の中から選りすぐった50点が展示される。作品は鉛筆コンテという独特の画材を塗り重ねて描かれ、歴史ある建物のまとう長い年月を経た空気感が見事に表現されている。さらにそこに透明水彩を融合させることで、訪れてみたくなる明るさがある。

島民でもおなじみの「水晶橋」や「淀屋橋」といった中之島の風景だけでなく、「大阪、安堂寺町の町家」「八瀬の元吊り橋」「東山三条の千鳥酢前」など今はもう見られない場所も含まれている。建物の魅力とともに、過ぎ去った記憶に思いを馳せることのできる展覧会だ。（大迫力・本誌）

「水晶橋」

「三井住友銀行大阪本店前」

「ソテツと大阪城」

鉛筆コンテが観た京阪沿線の建築物50選

期間／2月21日（月）～3月4日（金）　土・日曜休館　時間／10:00AM ～ 6:00PM（最終日は～ 3:00PM）

会場／アサコムホール（朝日新聞大阪本社1階）　入場料／無料　問い合わせ／アサコムホール☎06-6201-8034

「おせっかい教育論」リターンズ開催決定！

一昨年の10月1日、ナカノシマ大学のキックオフセミナーとして開催された「21世紀は街場で学べ！」。その内容を元にして出版された『おせっかい教育論』は、教育問題はビジネスマインドで語られるべきでなく、その本質は〝おせっかい〟にあるという論調が注目され、すでに3刷、新聞書評などでも多数取り上げられた。

その『おせっかい教育論』が、鷲田清一・内田樹・釈徹宗・平松邦夫という奇跡のような豪華メンバーはそのままに帰ってくる。今回は舞台を相愛学園に移し、本の中では語りきれなかった内容や出版後の反響なども踏まえ、4人が熱く意見を交わす。現代を代表する知性の織りなす知的興奮に満ちた討論と同時に、ナカノシマ大学から生まれた「街場で学ぶ」ムーブメントの広がりをぜひ体感していただきたい。（大迫力・本誌）

『おせっかい教育論』シンポジウム

会場／相愛学園本町学舎 講堂

日時／3月5日（土）　3:30PM ～ 6:00PM（開場3:00PM ～）

入場料／無料

申し込み／［ハガキ］名前（フリガナ）・住所・電話番号・年齢・職業（教員の方は勤務先の学校名、高校生は学校名と学年）を記入のうえ、以下の宛先までお送りください。〒541-0053 大阪市中央区本町4-1-23 相愛学園 「おせっかい教育論」係

［FAX］ハガキと同じ必要事項を記入してお送りください。FAX.06-6263-0205

［インターネット］下記のホームページからお申し込み下さい。http://www.soai.jp/

※すべての締め切りは2月18日（金）です。応募者多数の場合は抽選。当選者には3月2日（水）までに入場ハガキが届きます。

お問い合わせ／☎06-6262-0621（相愛学園総務課）

堂島ホテルの「堂島塾」スタート

中之島周辺だけでなくさまざまな場所で「学びの場」が増えている。そんな中、渡辺橋のたもとにある堂島ホテルでも新たに「堂島塾」が開講される。第1回目に行われるのは、店舗やブランドづくりのプロデューサーとして知られ、ビジネスに関する著書もある藤巻幸夫氏と、同ホテルのプロデュースも手がけた中村貞裕氏の二人によるトークセミナー。ブランド作りの発想法やどのように人を集めるかといったビジネスマン向けの内容ながら、「壌徳堂や適塾といった学問の系譜がある大阪の中でも、近代先物取引発祥の地でもある堂島らしいセミナーを」というコンセプトは、街の学びの場の広がりの一つと言って良いかもしれない。（大迫力・本誌）

堂島塾

日時／2月23日（水）

4:00PM ～ 5:45PM（講演）

6:00PM ～ 7:00PM（懇親会）

会場／堂島ホテル バンケット

参加費／3,000円

（懇親会参加の場合6,000円）

チケット／ホテルのフロントにて販売するほか、メール・電話にて予約後、料金を振り込み。

お問い合わせ／☎06-6341-3802

「らしさ」のある街に住みたい。

宇治をひもとく

同じ住むならやはり個性のある街に住みたいもの。歴史や風景、お茶と、宇治には誰もが知る個性に溢れている。まずは源氏物語や世界遺産などの歴史をひもといてみる。

取材・文／大迫 力（本誌）

平安時代以前の宇治

京阪電車宇治駅を出るとすぐに、宇治橋が目に入る。山々を背に一直線に伸びる姿はとても美しい。たもとにはその歴史を記した看板があるが、初めにかけられたのはなんと大化2年（646）にさかのぼる。大化と言えば、中大兄皇子らによる「大化の改新」のすぐ後ということになる。宇治と言えば平安時代の貴族たちに愛された場所だと思っていたが、実はかなり古くから交通の要衝として栄えたようだ。

宇治橋がかかる宇治川は琵琶湖から流れ出る唯一の川であり、日本海側や湖北方面から、奈良や京都の都、さらには瀬戸内海まで通じる重要な水路の一部だった。加えて奈良方面と北陸を結ぶ陸路のターミナルでもあり、宇治橋は日本で初めて架けられた橋とする説もある。現在の橋は平成8年（1996）に架け替えられたもので、擬宝珠があしらわれた桧製の欄干や桁かくしが長い歴史をもの語っている。

宇治橋を西から望む。向こうに見えるの山々の、その向こうが京の都。

宇治は貴族たちの別荘地だった

宇治が歴史の表舞台に登場するのは平安時代のこと。平安京に暮らす貴族たちが、この地に次々と別業（別荘）を建てるようになった。「源氏物語ミュージアム」の展示よれば、京都から宇治までは牛車に乗って6時間ほどだったというが、現代にするとどのくらいなのだろう。いずれにせよ「少し足を延ばせば」という距離にある便利さに、風光明媚な景色があいまって、宇治は別荘地として注目を集めていく。貴族たちはここで、夏には川で舟遊び、秋には紅葉狩りにふけったようだ。

実は世界遺産に登録されている有名な平等院も、もともとは貴族の別荘。「光源氏」のモデルの一人とも言われる源融（みなもとのとおる）の別荘であった宇治院を藤原道長が購入し、譲り受けた息子の頼通が永承7年（1052）に寺院に改め、現世に極楽浄土を表すべく鳳凰堂などの建物を整備していったのだった。

宗教的な色彩も豊かに

なんとも優雅なイメージだが、平安時代の別荘地はそればかりではない。宗教的な色彩もまた宇治には色濃かった。「御堂」と呼ばれる持仏堂が営まれ、貴族たちはそこで精神的な安らぎを求めて仏と対話したという。『源氏物語 宇治十帖の風土』によれば、「都の生活を公的な、建て前的な世

界とするなら、別業での生活は、私的な、本音の世界であったといえる」としている。宇治で過ごす宗教的な時間も平安時代の貴族政治の舞台の一つだったという指摘を考えると、貴族たちにとって特別な存在感を放つ街だったであろうことが想像できる。

また、京阪電車宇治線の駅名にもある木幡の一帯には藤原氏の陵墓がたくさんあり、現在も「宇治三十七陵」と呼ばれるほど密集している。加えて寛弘2年（1005）には藤原道長が、一族の埋骨所として浄妙寺を建立する。当時、「この世をば我が世とぞ思ふ」くらいに権勢を誇った道長が、その勢いを藤原氏に引き継いでいくため、先祖の供養と一門の結束を高めるためだったと言われている。こうした出来事により、宇治の宗教的性格はさらに高まっていった。

『源氏物語　宇治十帖』

そんな様子はかの『源氏物語』にも影響を与えたのではないかと言われている。全五十四帖からなる『源氏物語』の第四十五帖から最終巻までは「宇治十帖」と呼ばれ、宇治が舞台になっている。そこでは人間の業や出家が物語に複雑に絡んでいくが、こうしたテーマを描く際に、宇治の持つ宗教的なムードが貴族たちに臨場感をもたらしたのではと言われている。「宇治川をはさみ此岸（現世）と彼岸（死後の世界）が混じり合うような宇治ほど格好の地はなかった」と前書が書くように、宇治川の西側には平等院を初めとするきらびやかで豪奢な空間が広がり、東側には同じく世界遺産ではあるものの、密やかで落ち着いた趣のある宇治上神社がある。こうしたことも作者の頭にはあったのかもしれない。川を挟んで雰囲気が変わる様子を来世と現世に見立てるとは、なんともロマンに溢れている。なんて、貴族たちも思ったのだろうか。

宇治上神社の入口鳥居。ユネスコの世界文化遺産に登録されていることを示す石碑も。

宇治上神社の拝殿。屋根の形が珍しく、建築的史料としての価値も高いと言われている。

宇治橋の上から見る景色。写真の右側に平等院、左側に宇治上神社がある。

『宇治十帖』にまつわる場所が街のあちこちに。これは第五十帖の「東屋」にまつわる古跡。

「夢浮橋ひろば」にある紫式部の像。広げているのは書き上げたばかりの『源氏物語』か。

宇治橋のたもとにある、『宇治十帖』から名前をとった「夢浮橋ひろば」の案内板。

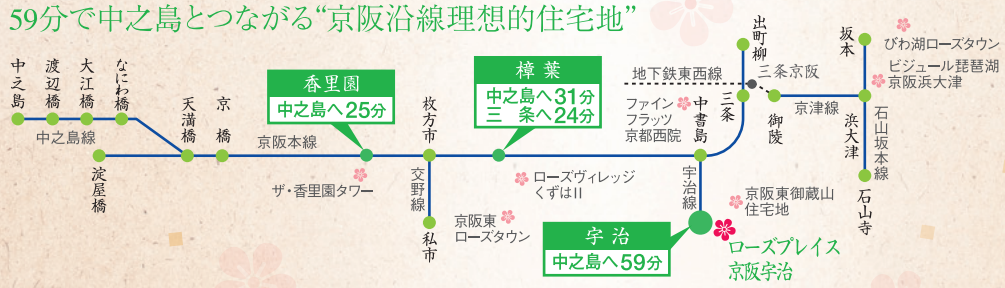
地元な宇治の話。

会社員
田畑翔子さん（24）

小・中・高と宇治にある学校を卒業し、駅前のお茶屋さんでアルバイトをしたこともあるという田畑さん。平等院や宇治上神社といった世界遺産に囲まれていることをことさら意識はしないようだが、高校生時代には海外からの留学生をお寺に案内したりと、宇治の歴史とも馴染みは深いようだ。「興聖寺というお寺へ行くまでに、琴坂という坂道があります。川の流れが琴の音に聞こえるみたいで、紅葉シーズンには観光客でいっぱい。でも夏に行くととても静かで落ち着けるんです」。知らず知らずのうちに、宇治の魅力に触れている田畑さん、京阪電車の宇治線も大好きだと話す。「宇治から乗って、宇治川の方を向いて座っていると、観月橋の手前で窓の景色が空と土手だけになる瞬間がある。私だけしか見ていないかもしれないけど」。こんな話もまた実に地元らしい。

宇治以外のよその街で、お茶の香りがするとつい「あ、宇治の匂い」と思ってしまいます（笑）

59分で中之島とつながる“京阪沿線理想的住宅地”



KEIHAN 京阪電鉄
こころまち つくろう

シリーズ第5回
宇治

すいすい、古都・宇治へ。

ローズプレイス京阪宇治周辺写真

水都と古都を結ぶ川の流れのように。

京阪本線の大阪・天満橋―京都・五条間が開通したのが1910(明治43)年。3年後、中書島と宇治を結ぶ宇治線が開通しました。その後、宇治エリアでは宇治三室戸、宇治御蔵山、宇治琵琶台、東御蔵山など、つぎつぎと住宅地開発が進められていったのです。そうした背景には宇治が平安貴族の別荘地であり、源氏物語ゆかりの地であるなど、歴史に裏づけられた魅力あふれるエリアであることが大きな要因にもなっています。「ローズプレイス京阪宇治」は駅徒歩4分という好アクセスでありながら、優雅な歴史の舞台が暮らしの舞台となる風光明媚なロケーションを誇っています。

その「ローズプレイス京阪宇治」から、宇治十帖ゆかりのさわらびの道を辿っていくと宇治川に出会います。滔滔と流れる宇治川はやがて淀川と合流し、水都・中之島へと流れています。

京阪東御蔵山住宅地

樂離宮
ローズプレイス 京阪宇治
— 源氏物語の郷 —

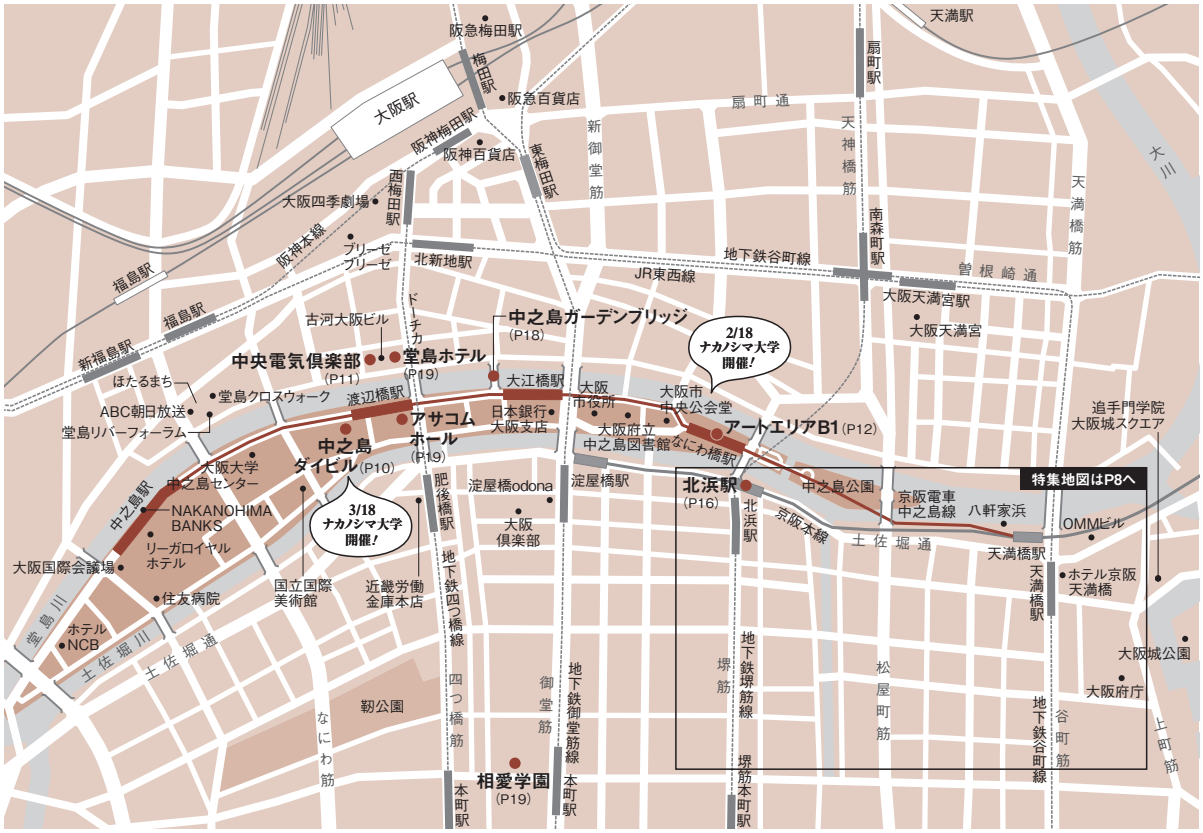
ローズプレイス京阪宇治
■所在地／京都府宇治市
■開発面積／約8,725.73㎡
■計画戸数／35戸
◆最寄駅／京阪電車「宇治」駅

※所要時間は目安です。時間帯等により異なる場合があります。

京阪グループが提供する住まいの情報
http://www.keihan-kiss.co.jp

大「島民」MAP

橋を渡って通う人、川を見ながら帰る人、みんな「島民」です！



『月刊島民』はここでもらえます。

●**京阪電車関連**　京阪電車主要駅／京阪シティモール／京阪モール／デリラタ天満橋店／ホテル京阪天満橋／ホテル京阪京橋

●**大阪市北区・中央区・福島区**　［**書店**］旭屋書店 本店／旭屋書店 梅田地下街店／旭屋書店 堂島地下街店／紀伊国屋書店 本町店／ジュンク堂書店 大阪本店／ジュンク堂書店 梅田ヒルトンプラザ店／ジュンク堂書店 天満橋店／MARUZEN&ジュンク堂書店 梅田店／スタンダードブックストア／ブックスタジオ／天牛堺書店 大江橋店／ブックファースト 梅田店／ブックファースト 淀屋橋店／文教堂書店 淀屋橋店／隆祥館書店

［**公共施設・大学関連施設など**］アイスポット／朝日カルチャーセンター／味の素　食のライブラリー／ABC朝日放送／大阪企業家ミュージアム／大阪倶楽部／大阪工業技術専門学校／大阪国際会議場／大阪市社会福祉研修・情報センター／大阪市中央公会堂／大阪市立中央図書館／大阪市役所市民情報プラザ／大阪城天守閣／大阪商工会議所／大阪大学中之島センター／大阪21世紀協会／大阪府立中之島図書館／大阪フィルハーモニー会館／大阪ボランティア協会／大阪歴史博物館／追手門学院　大阪城スクエア／関西学院大学 大阪梅田キャンパス／慶應大阪リバーサイドキャンパス／国立国際美術館／CITY NAIL'Sインターナショナルスクール／芝川ビル／市立住まい情報センター／中央電気倶楽部／ホテルNCB／メビック扇町／ろうきんギャラリー心斎橋

［**店舗・医院など**］アリアラスカ マーブルトレ／アンドール 本町本店／上町貸自転車／ Ultra 2nd ／江戸前鰻料理 志津可／ EXPO CAFE ／ MJB珈琲店／大西洋服店／ＯＯＯ（オーー）／カセッタ／喫茶カンタータ／喫茶SAWA ／グランスイート中之島／黒門さかえ／コモンカフェ／サトウ花店 中之島本店／ザ・メロディ／じろう亭／Girond's JR ／心斎橋山田兄弟歯科／住友病院／セブンイレブン大阪証券取引所店／タピエスタイル／ティーハウスムジカ／たまがわ鍼灸整骨院／東郷歯科医院／NAKAGAWA1948 淀屋橋店／ナンジャーノ／パストラーレ／花かつ／ BAR THE TIME 天神／平岡珈琲店／ビルマニアカフェ／フレイムハウス／ミニジロー／宮崎歯科／やきとり ばかや／吉田理容所／ラ・クッカーニャ／ LES LESTON

●**大阪市内その他**　［**書店**］伊勢屋書店／大阪書店／紀伊國屋書店 京橋店／福島書店／柳々堂　［**公共施設・大学関連施設など**］大阪市社会福祉研修・情報センター／大阪市立図書館　［**店舗・医院など**］あじさい／アートアンドクラフト／欧風食堂 ミリバール／大阪市信用金庫 江戸堀支店／御船かもめ／Calo Bookshop and cafe ／写真とプリント社／鳥かごキッチン／なんばミヤタ／ネイルサロン スワンナ／ホステル64オオサカ／MANGUEIRA ／ Loop A

●**大阪府下**　旭屋書店 京阪守口店／学運堂 フレスト店／Books 呼文堂／水鳴書房 くずはモール店／水鳴書房 くずは駅店／大阪狭山市立図書館／大阪大学企画部広報・社学連携事務室／大阪大学 21世紀懐徳堂／大阪大学本部／寝屋川市役所／摂南大学 地域連携センター／郵政考古学会／ゆったりんこ

●**大阪府以外**　ジュンク堂書店 新宿店／ジュンク堂書店 西宮店／水鳴書房 丹波橋店／伊丹市文化振興財団／大手通りストリートギャラリー 街・発信／納屋工房／タバーン・シンプソン／奈良県立図書情報館

◎バックナンバーお譲りします。

バックナンバーをご希望の方には1冊100円（手数料）でお譲りしています。なお、品切れの号もありますが、予めご了承ください。お問い合わせは下記の電話番号まで。

◎定期購読も受け付け中です。

毎月確実に読みたい方は、ぜひお申し込みください。まずは下記の電話番号までお問い合わせ下さい。

次号予告 **中之島アースダイバー**

現在、私たちが歩くこの中之島の地面の下にはどんな秘密があるのか？
中沢新一氏の『アースダイバー』よろしく、中之島のなりたちを考えてみる。

●『月刊島民』vol.32は2011年3月1日発行です！

編集・発行人／江 弘毅（編集集団140B）
編集・発行／月刊島民プレス
若狭健作　綱本武雄（株式会社 地域環境計画研究所）
松本 創　大迫 力（編集集団140B）
〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階
Tel 06-4799-1340　Fax 06-4799-1341
制作進行／堀西 賢（ALEGRESOL）
デザイン／山崎慎太郎
表紙イラスト／奈路道程
印刷／佐川印刷株式会社

月刊島民 中之島 31号 2011年2月1日発行 編集・発行人／江 弘毅（140B） 編集・発行／月刊島民プレス 〒530-0004 大阪市北区堂島浜2-1-29 古河大阪ビル4階 定価0円 Printed in Japan

おけいはん、ヒミツの中之島。

まだ知らない中之島へ、京阪電車にのって。

イタリアンの隠れ家みつけた！
ラ・クチネッラ・ディ・ヤマモト
◎ 06-6451-5454

いまどき空間で老舗名店の味。
ガゼボ リバーサイドグリル
◎ 06-6453-8882

お蕎麦って、甘味があるんだ。
十割そば工房 むもん
◎ 06-6453-8685

ほっこり田舎旅きぶん。
Mamezo&Cafe マメゾー&カフェ
◎ 06-6453-6877

お腹いっぱい！本気ビストロ。
フランス大衆食堂 La Brise ラ・ブリーズ
◎ 06-6147-2525

ふぞろいのカップでぐっとおいしい。
スープ&カフェ チェリー
◎ 06-6445-7033

「ウフィツィ美術館 自画像コレクション 巨匠たちの「秘めた素顔」1664-2010」
国立国際美術館　2/20 まで 月曜（祝日は翌日）休館 ◎06-6447-4680

鉛筆コンテが観た「京阪沿線の建築物 50 選」 水津俊和画
朝日新聞大阪本社アサコムホール 2/21 ～ 3/4 土・日曜は休館 10 時～18 時（最終日は 15 時まで）◎06-6201-8034

アートな見どころも！

おけいはん 検索
www.okeihan.net

京阪のる人、おけいはん。